

Campus

全大会の広報誌

Jan. 2023

228号



Issue on Internationalization of the Campus

国際化
について

学類特集 国際総合学類

新設！国際特別委員会

全大会活動報告

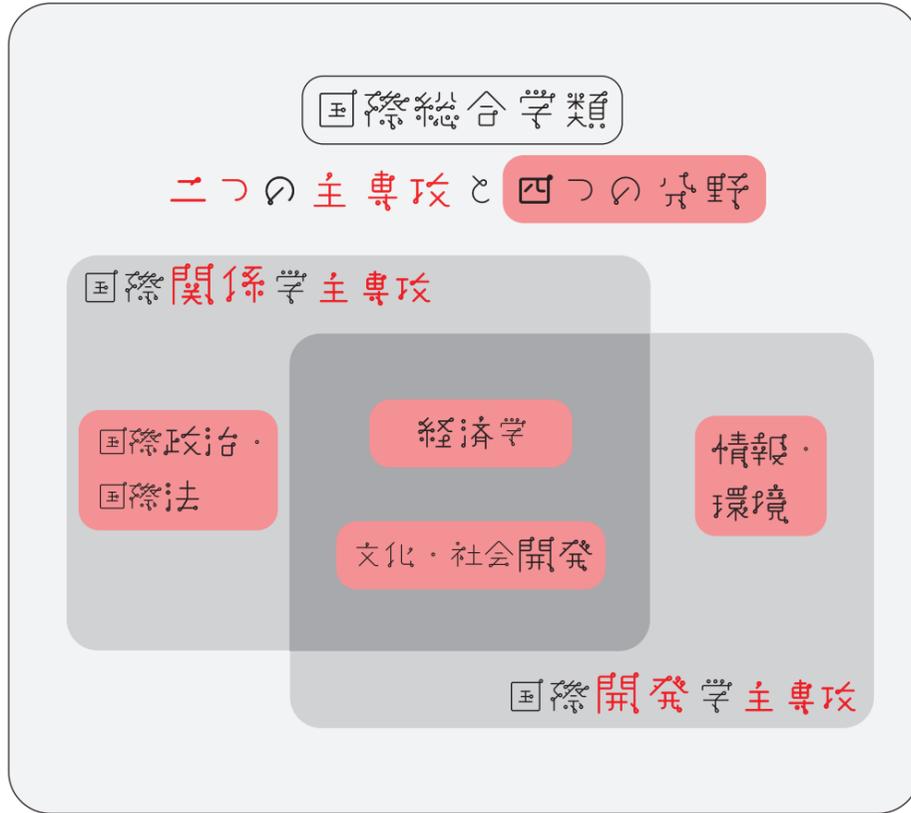
国際総合学類特集

学類長 柏木 健一

人文社会系教授



国際総合学類には、国際関係学と国際開発学の二つの主専攻とそれらを横断する形で四つの分野が存在しており、社会科学を中心としてより発展的、応用的な学融合教育を行っている。今回はそんな国際性、学際性の際立つ国際総合学類を特集する。(菅原)



国際政治・国際法

現代の世界が抱えるさまざまな問題に、政治学や法学の観点からアプローチする。

経済学

国際経済関係や公共政策、発展途上国の開発に関わる諸問題を理解・分析する。

文化・社会開発

世界のグローバル化や文化の相違によって生じる諸問題を理解・分析する。

情報・環境

情報や環境に関する国際的な問題を、社会との関わりという視点から捉える。(菅原)

国際総合学類の特色

国際総合学類の学類長である柏木健一教授（人文社会系）に話を聞いた。国際総合学類には、国際政治や外交を主に扱う国際関係学主専攻と、発展途上国の経済開発や社会開発を扱う国際開発学主専攻という二つの主専攻がある。そこからさらに、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境という四つの分野に分かれ、学生たちはそれぞれの研究分野でグローバルな課題に関する学びを深めていくそうだ。

筑波大学の中でも際立った国際性と学際性、特に文系と理系の融合型教育が特色である、と柏木教授は言う。人文社会系の教員とシステム情報系両方の教員が在籍しており、国際社会のさまざまな課題解決のためのアプローチを文理両方の観点から学ぶことができる。また、社会科学の基礎を踏まえ、国際関係や国際開発に関わる課題解決型教育を展開することで、「国際学」という総合知の構築を図っている。

目指すものは

国際総合学類では、学際的視野を有し国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成に力を入れているそうだ。国際的に通用する表現力やコミュニケーション能力を有する学生の育成のために、「English Debate」や「English Discussion Seminar」といった授業が開講されており、英語で専門科目を学ぶ機会も提供されている。また、社会学類と共同で社会国際学教育プログラム（TISS: Tsukuba International and Social Studies）という学群英語プログラムの実施に協力しており、筑波大学が掲げる「国際性の日常化」を先導している。加えて、文理融合型のカリキュラムを生かし、数理・データサイエンス分野に展開することで、社会科学の視点だけでは解決できなかった社会的課題にも挑んでいきたいそうだ。「これまで以上に社会科学分野を軸とした文系と理系の連携に力を入れていきたい」と柏木教授は語る。(大谷)

国際総合学類も選んだ理由

「国際総合学類は政治、法律、経済、環境、情報などを幅広く学び、国際的諸問題に対してさまざまな観点からアプローチできる。高校時代に何をやりたいかの方向性がはっきりとしていなかった私にとって、最適な進路だった」と小川萌望さん（国際総合学類2年）は語る。これまでの大学での学びを通じて、今は貧困問題と環境問題に興味を持ち、自分自身が何をやりたいのか、何をやるべきなのかが明確になったという。

留学生との交流

小川さんは、留学生との交流イベントに積極的に参加し、彼らとのコミュニケーションを密に取ることが重要だと考えている。自身もそのようなイベントに参加したことで、留学生と一緒に食事をしたり、頻りに連絡を取り合ったりする関係になった。しかし、留学生との交流イベントに参加する日本人学生はそう多くはない。「より多くの学生が参加し交流を深めることができるのでは、さらなる異文化理解につながるのではないか」と感じているそうだ。

目標、そして今

小川さんには「サブサハラ・アフリカ地域の貧困区域で農村開発に携わり、現地の人々の所得の向上につなげる」という目標がある。重要なことは、現地の人と同じ目線に立ち、一体となってその目標を達成することだという。それは、先進国の価値観を押し付けてしまうと、現地の人とのギャップが生じるからだ。「そのためにも、さまざまな価値観や文化的背景をもつ留学生と交流し、授業やインターンへの参加を通して国際情勢を深く知る必要がある」と語る。目標の達成に向けた小川さんの今後のアクション、そして国際社会での将来的な活躍に期待したい。(菊地)



国際総合学類2年
小川 萌望

今年度の7月20日に行われた第四回本会議で特別委員会として発足した、国際特別委員会。委員会発足から今日に至るまで何を成し遂げたのか。そして、これから国際特別委員会はどうのような活動に取り組むのかを山口殺人委員長（応用理工学類2年、左写真）と、留学生で委員のAlMaha Al-Janahiさん（生物学類2年）、城地咲知さん（地球規模課題学位プログラム2年）に取材した。（篠崎）



新設！！ 国際特別委員会

委員会発足まで

今年度発足したばかりの国際特別委員会を率いるのは、山口殺人委員長だ。元々山口委員長は学内行事委員会で活動していたが、それまで国際特別委員会設置を計画、準備していた先輩に、参加しないかと勧誘された。勧誘に応じた理由については、「それまで国際的な活動を担当していたこともあり、いい機会だと思っ参加することにした」と語る。

当特別委員会の活動内容は、留学生の生活をフォローする仕組みを整えることだ。他大学と比べ筑波大学には多くの留学生が在籍しているが、それでも大学の中では少数派。言語や文化の壁に阻まれ、彼らの問題は埋もれてしまいがちになる。そういった留学生特有の問題を解決する環境を作り、最終的には全代会全体を国際化させることが国際特別委員会の目標だ。つまり、この委員会自体が存在しなくてもいいような環境をつくり出すことである。そのため常任委員会ではなく、あくまで期限付きの特別委員会として発足された。

これからの活動について

これまで行ってきた活動は、発足したばかりということもありまだまだ少ない。そのなかで、大きな企画の一つが「秋



留学生と国際特別委員会の集合写真

の新生歓迎祭（以下、秋新歓）である。このイベントは、さまざまな課外活動団体や一般学生団体（以下、学生団体）が留学生に向けて活動を紹介し勧誘するものだ。委員会が発足して初めて企画・運営するイベントだったが、想定よりも多くの団体が参加してくれた。トラブルも少なくなかったが、学生交流課・学生生活課の協力もあり、無事にやり遂げることができた。またイベントを通じて、3人の留学生が全代会に加入してくれたことに加え、留学生に向けた全代会の知名度の向上につながった。山口委員長も、この企画は成功だったと語る。

また、山口委員長は「今後の展望として、留学生による国際的な文化祭を開催したい」と語る。留学生が地域ごとにブースを出しさまざまな催しをする、「国際版雙峰祭」のようなものを企画しているそうだ。

もう一つの大きな活動は、チューター制度の改善だ。現在筑波大学では、留学生がつくば市内で快適に暮らせるように、市役所での手続きや携帯の契約などに、諸々の手伝いをするチューターを大学の学生から募集している。しかし、場合により留学生のニーズとチューター側の意識に大きな隔たりがあり、うまく機能しない例もある。その溝を埋めるために、アンケートの活用やマニュアルの改善などを通じて、より留学生に寄り添った制度にしていく活動を行っている。

現状の大学側のサービスでは日本語のみで記された資料が多いことをはじめとして、留学生の生活に関する問題は依然として山積みだ。そういった問題に一つずつ対応し、留学生からの声を直接聞き寄り添い、地道に改善していく。それが国際特別委員会である。（勝又）

共に創る、秋新歓

国際特別委員会に所属する留学生の城地咲知さんとAlMaha Al-Janahiさんの2人が秋新歓の開催に至る経緯を語る。留学生にとって学生団体を探したり加入を決定したりすることに大きな心理的障壁があるという課題を受け、歓迎イベントを企画した。その結果約20団体が参加依頼を快諾し、ダンスのステージパフォーマンスを含む秋新歓が実現したそうだ。城地さんは今回のイベントで



秋新歓時の国際特別委員会のメンバー



@ZDK_TSUKUBA

全代会公式 Instagram
国際特別委員会と
広報委員会が共同で
運営している。

100人を超える留学生が学生団体への加入を決めたことを受け、「みんなのおかげだ」と話す。また、AlMahaさんは「秋新歓を通して、日本人が多数を占める学生団体への加入に前向きになることができた」と付け加えた。

さらに、これからの国際特別委員会の活動について、日本人学生と留学生が交流できるイベントの開催を企画していることを明かす。2人は開催に向けて尽力していくと意気込みを語った。（高橋）

We need your help!

Attention!

全代会を国際化

留学生の意見を集約

留学生関連の問題解決

英語ができなくても大丈夫！
留学生にも国内学生にも便利な学生生活
を目指して活動してくれる方を募集中！

などなど.....

全代会活動報告

第三回本会議

日時：令和4年6月22日(水) 18時30分
場所：(対面) 3A204
(オンライン) Microsoft Teams
出欠：出席51 遅刻1 早退1

議題1『令和5年度学園祭開催に関する要請』

【採決結果】(採決時の出席者は51名)
承認：51
否認：0
保留：0
↓全会一致で可決された。

議題2『新入生歓迎特別委員会の設立について』

【採決結果】(採決時の出席者は51名)
承認：52
否認：0
保留：0
↓全会一致で可決された。

議題3『全代会専用ラック設置について』

【採決結果】(採決時の出席者は51名)
承認：49
否認：1
保留：1
↓承認多数で可決された。

の諸問題を解決するために国際特別委員会の設立が要請された。

議題3では、議長団から提出された「企画・戦略特別委員会設立について」の審議が行われた。企画・戦略特別委員会は全代会の広報の拡大と全代会の企画の立案や長期的な課題の解決を活動内容とする特別委員会である。長期的な課題とは、具体的には学則の改訂、クラス代表者会議や全代会の制度の改善などだ。このような長期的課題を専門的に解決するため、企画・戦略特別委員会の設立が要請された。

秋の新入生歓迎祭

日時：令和4年9月30日(金) 11時20分
場所：大学会館2階ホワイエ、3階ホワイエ、3階ホール

○実施内容

全代会主催の下、秋学期に入学する留学生を対象とした「秋の新入生歓迎祭(以下、秋新歓)」が開催された。今年度のテーマは「[stku・Kob. つく恋/来い]」である。秋新歓は、全代会国際特別委員会が中心となって企画された。国際特別委員会とは、令和4年7月から令和7年6月にかけて、留学生を取り巻く諸問題の解決と全代会の国際化を図るために新たに発足した組織だ。イベントには全代会のブースの他、20団体ほどの課外活動団体と一般学生団体が参加し、秋学期から新たに入学した留学生を歓迎し交流を深めた。

○議題について

議題1では、学内行事委員会から提出された「令和5年度学園祭開催に関する要請」についての審議が行われた。学園祭の実施に関しては前年度の8月末日までに全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(以下、全代会)において意見をまとめて学長に要請する必要がある。

議題2では、議長団から提出された「新入生歓迎特別委員会の設立について」の審議が行われた。全代会では毎年新入生歓迎時期に特有の諸問題に関しての対処、並びに各学類・専門学群・総合学域群での新入生の歓迎に際して統一された情報の提供を行うことを目的とし活動する。具体的な活動内容としては新入生関係団体が行う活動の支援、筑波大学紫峰会への申請補助、及び合格発表日の学内巡回や宿舎入居等の支援である。以上のような活動を行うため、新入生歓迎特別委員会の設立が要請された。活動期間は令和4年8月から令和5年5月を予定している。

議題3では、広報委員会から提出された「全代会専用ラック設置について」の審議が行われた。現在、他団体の広報物によるラックの占有、並びに新型コロナウイルス感染症の影響によるラックの撤去により、従来の場所に全代会の広報物を配布できない状況である。全代会が使用できるラックが増えることで、全代会の広報物やポップの設置により全代会の広報を強化することにもつながる。以上のことから、全代会専用ラックに関する要望が提出された。

私が広報委員会として活動した期間は本当にごくわずかだったので、余白をいただき恐縮に思います。委員のみんなは「Campus」をつくる時、和気あいあいと活動するので、私もとても楽しかったです。居場所をくれてありがとうございます。これからも広報委員会と「Campus」をよろしく願います。(石原悠翔)

「Campus」で記事を執筆、編集していくなかで、たくさんのお会いがありました。それは知識であったり、技術であったり、人であったり。そして、それらとの出会いひとつひとつが、現在の自分をつくる糧となっています。今までありがとうございました。私との出会いもまた、誰かの糧となっていれば幸いです。(太田なみ丞)

私たちの大学はコロナと共にあった。委員会初対面は9月で、初執筆は「コロナ特別号」だ。そのような状況下で、「Campus」は大切なつながりとなった。お世話になった広報メンバー特に同期との思い出はかけがえのない宝物である。今までありがとうございました。(寛場広翔)

約3年間広報委員として「Campus」の制作に関わってきて、取材や記事の執筆など忙しくも楽しい貴重な経験をさせてもらったと思います。いつの間にか広報委員会が大事な居場所になっていて、かけがえのない仲間もできました。皆様、本当にお世話になりました。また、「これからも「Campus」をよろしく願います。(松本琉那)

第四回本会議

日時：令和4年7月20日(水) 18時30分
場所：(対面) 3A204
(オンライン) Microsoft Teams
出欠：出席46 遅刻0 早退1

議題1『TWINS改善の要望について』

【採決結果】(採決時の出席者は46名)
承認：43
否認：0
保留：3
↓承認多数で可決された。

議題2『国際特別委員会設立について』

【採決結果】(採決時の出席者は46名)
承認：42
否認：1
保留：2
無効票：1
↓承認多数で可決された。

議題3『企画・戦略特別委員会設立について』

【採決結果】(採決時の出席者は45名)
承認：44
否認：1
保留：0
↓承認多数で可決された。

○議題について

議題1では、教育環境委員会から提出された「TWINS改善の要望について」の審議が行われた。要望は全部で六つあり、「TWINSの

2年次の春から主に朱入れ担当として「Campus」の編集に関わり、楽しい時間を過ごしました。温かく受け入れてくれた先輩方、遠慮なく接してくれた同期、元気をくれた先輩。本当にありがとうございました！皆さんのこれからと、「Campus」の未来に幸あれ。(三好真生)

編集後記

今号から「Campus」の編集長を務めることになりました。「Campus」をより多くの方に手に取ってもらい、全代会を身近に感じていただけるよう、尽力していきます。今後とも全代会を、そして全代会の広報誌「Campus」をよろしく願います。(菅原由乃)

自己判定機能を学年問わず使用できるようにする」「事前登録科目を抽選前に時間割に表示する」「TWINSの掲示板「授業(主としてmanabaのコースニュースからのお知らせ)/Classes」欄の削除」「学群生と大学院生で授業に関する情報を分ける」「TWINSの掲示板のお知らせにタグ(#)を付ける」「分類された情報についてのメール通知・授業評価アンケートについてのメール通知をする」である。

議題2では、山口毅人さん(応用理工学類2年)から提出された「国際特別委員会設立について」の審議が行われた。国際特別委員会は学内での留学生の諸問題を解決するために組織された委員会である。国際特別委員会が扱う予定の問題は三つある。一つ目は留学生にとって三系(文化系サークル連合会・芸術系サークル連合会・体育会)発行のサークル紹介誌が読みづらいという問題である。現在のサークル紹介誌は日本語のみで書かれており、留学生が情報を得るのが難しい。そこで英語版を作成するなど留学生でも読みやすい媒体にする対策を講じる。二つ目はチューター制度での問題である。チューター制度とは留学生に対し日本人、もしくは日本語が達者な留学生が支援するという制度であるが、支援する側に起因する問題が発生している。この状況を鑑みて、チューター制度の改善にむけた働きかけを実施する予定だ。三つ目は留学生の意見が全代会で集約されていないという問題である。現状、全代会には留学生の参加者が少なく、そのため留学生が抱えている問題点も分かりづらい。よって全代会に積極的に留学生を参加させるなどをして解決を図る。以上

BACK NUMBER



Campus 227号 2022/10/01

- ・学類特集
～応用理工学類～
- ・図書館特集
～サードプレイスとしての図書館～
- ・2022年度の全代会



全代会の広報誌
Jan. 2023
2023年1月10日発行

- | | |
|--------|-------|
| 編集長 | 菅原由乃 |
| 発行人 | 江波戸憧音 |
| 表紙デザイン | 佐藤陽亮 |
| 編集委員 | 太田なみ丞 |
| | 松本琉那 |
| | 三好真生 |
| | 佐藤陽亮 |
| | 佐藤陽亮 |
| | 石原悠翔 |
| | 宮西真杏 |
| | 熊谷奈々恵 |
| | 江波戸憧音 |
| | 勝又玲 |
| | 高田梨々子 |
| | 佐藤凌 |
| | 川島淳一郎 |
| | 篠崎健太 |

発行 全学学類・専門学群・総合学域群
代表者会議 広報委員会
(zdk@stb.tsukuba.ac.jp)





専門委員 募集中

全学学類・専門学群・総合学域群
代表者会議

Campus
228

@ZDK_TSUKUBA



**We
Welcome
YOU to JOIN!**